

【アゼルバイジャン経済トピック 93 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2022 年 6 月 14 日

インフレの状況とパンの値段

ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー・穀物価格の高騰を受け、国際的にインフレの進展が見られますが、アゼルバイジャンにおいても同様の傾向にあります。

近年、同国のインフレ率は2018年以降においては2～7%を推移していましたが、2022年4月の消費者物価指数は前年同月比+13.0%、食料・飲料品(アルコール飲料は除く)は+19.1%、サービスでは+10.2%を記録しました。特に野菜類における値上がりは激しく、2022年4月時点で前年同月比+71%となっています。

主食の食パン(「工場パン」という名前)や窯焼きパン(「タンディル」と呼ばれる)の値段は、首都バクーでは50 ガピック(=0.5マナト、約40円)から最近では60～80 ガピックに値上がりしているようです。「パンの値段は国民の不満のバロメーター」とも言われるだけに、政府は小麦粉やイーストの卸価格を抑制するなどして、値上げ防止に腐心している模様です。



(以上)